

平成28年度 村上市岩船郡総合部 活動報告

部長 富樫 美由紀

1 研究主題

郷土のよさについて、体験を通して問題を追究する子どもをめざして

2 研究の概要

- 4月28日(木) 第1回 研修テーマ、活動計画立案
8月19日(金) 第2回 部内研修会(村上市総合文化会館)
・講義「総合的な学習における効果的な指導方法・実践指導」
講師 村上市立岩船小学校教頭 佐久間 州彦 先生
・報告「各小学校における実践報告」
・演習「思考ツールの活用の仕方について」
10月 4日(火) 第3回 授業参観及び協議会への参加(村上市立保内小学校)

3 研究の実際

(1) 第2回研修会

総合的な学習「ゴミのない佐々木にしよう」の授業実践をもとにご講義いただいた。子どもが目目の前の問題を「自分事」として生き生きと活動した実践から、「解決したい」という強い問題意識と子どもの思考を生み出すことのできる学習対象を選定すること、学習対象との出会わせ方を、子どもや地域の実態に合わせて工夫することの大切さを学ぶことができた。

各小学校の実践報告では、身に付けさせたい資質・能力を明確にした地域素材の活用、よりよい気付きと子ども同士のかかわりを生むワークシートなど、今後の授業構想のヒントを得ることができた。また保内小学校で取り組んでいる思考ツールの活用の仕方についての演習では、数種類の思考ツールについて、その具体的な活用法を研修することができた。

(2) 第3回研修会

4年生の総合学習単元「荒川ってどんな川？荒川の良さを伝えよう！」の授業を参観した。本時は、家の人を対象にしたアンケート項目についてグループ内での話し合いを進める場面であった。前時までの活動で、実際に荒川に出かけ、水質調査や生物観察などの体験活動を十分に行い、荒川の歴史についても調べてきた子どもたちは、一人一人が荒川の魅力やよさを抱いていた。「家の人に、もっと荒川に行ってほしい」「なぜ行かないのか、理由を知りたい」という思いや願いをもった子どもたちは、全員が自分の考えをしっかりと伝えることができた。また、『ピラミッドランキング』を活用したことで、目的に沿って話し合いを進めることができた。前時までの学習をまとめた『荒川新聞』、色分けしてまとめた板書も有効であったという意見が参観者から出された。アンケートをどのように活用するのか、その先のゴールを見据えて活動することが大切ではないかという意見は、どの授業でも大事にしたい視点となった。



4 成果と課題

研修会では、子どもに考えさせる課題をつくりだすことが総合学習の身に付けたい資質・能力の育成になることを学んだ。また研究授業では、指導者がテーマの特性をよく理解した上で活動のねらいを明確にもつこと、子どもの考えをイメージして授業に臨むことが子どもの意欲を引き出し、それが主体的な学びにつながるということが分かった。

郷土のよさを生かし、子どもたちが本気になって追究し続ける授業を展開するためには、まず指導者自身が地域素材のよさや魅力と課題を知る必要がある。そのためにも、今後一層、部員同士の研修、連携の機会を増やしていくことが課題と言える。